

2月23日（金）2階アトリエ 9：00～9：40

1 題材名 クルクル くねくね アート

2 題材について

第4学年の子どもの発達段階を「最後の子ども期」、「10歳の壁」と形容することがある。子どもの成長は、個人差への配慮が必然ではあるが、教育現場で大まかな指標として認識されている実態がある。この傾向を図画工作に重ねると、造形活動そのものに浸り、自分らしく発想したり、造形的な創造的機能を発揮したりして、表現活動を楽しむ「中学年らしさ」が見られる一方で、発想展開が滞ったり、発想の情報源が過多となり、表現技能と折り合いがつかず活動が停滞したりする姿を見かけることもある。このような経験則に鑑み、本題材では、本校図画工作部研究テーマ「造形的な学びの心づもり」を受け、図画工作の「学びをひらく」手立てとして、新学習指導要領が挙げる資質・能力の一つ「思考力、判断力、表現力等」の観点に着目した題材開発を提案することにした。

本題材の中心的材料は、アルミ線と「猫の爪とぎ段ボール（支持体）」である。まず、題材名の「クルクル くねくね」が象徴する波形曲線、渦巻き、螺旋等の形を基本にした表現を提案する。その意図は、子どもたちが、アルミ線と支持体（段ボール）という材料の組み合わせから、クリスマスツリーや東京スカイツリー等の身近な造形に主題の着想を求める傾向を解すことにある。「造形的な学びの心づもり」では、「もの・場所・こと・人」との対話を大切にしている。特に「材料との対話」では、行為の継続性が重要である。そこで、「クルクル くねくね」の形状を支持体に差し込む行為の継続を基に、その後の展開を発想する造形的思考様式を促す場の設定を考えてみた。

また、「猫の爪とぎ段ボール」は、アルミ線の差し替えが容易であるため、試行錯誤の手間による活動の停滞を防ぐ利点がある。この材料には、「造形的な学びの心づもり」である「主題を掴むまでの過程において、発想や思考の転換を恐れない勇気をもって、表現したいことを自ら探し出すこと」という昨年度の研究成果を反映する特性が備わっていると考えている。

3 学習指導計画（1時間目／全5時間）

- 1次 「クルクル くねくね アート」の表現様式を感じとり、試しながら活動を始める。（1時間・本時）
- 2次 多様な「クルクル くねくね」の形や組み合わせを考えながら表現することを楽しむ。（3時間）
- 3次 題名、表現意図を名札に記入し、ファミリーを中心とした友人たちと相互鑑賞を行う。（1時間）

4 本時の学習について

（1）本時のねらい

様々な「クルクル くねくね」の形を楽しく発想し、試しながら立体に表す活動を始める。

（2）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 表現様式を感じとり、多様な「クルクル くねくね」を発想し、アルミ線で表すことを楽しむ。	・「クルクル くねくね」から連想する、波形、渦巻き、螺旋等の形を必要に応じて紹介する。
2 多様な「クルクル くねくね」の組み合わせや支持体の活用方法を工夫する。	・波形や螺旋等を成型を補助する型（容器、筒、棒等）を用意する。
3 偶然の組み合わせから発想したことを基に、主題を展開することを楽しむ。	・支持体の扱いは制限せず、必要に応じて切って使ってもよいことを伝える。
4 装飾材は「クルクル くねくね」が引き立つように使用することを意識する。	・アルミ線の接合はセロテープ使用可。固定は接着剤使用可。装飾材料は表現バランスを考慮する。